

登録コード	E2011900	開講年度	2026				
授業科目	近代文学講読				担当教員	藤原 崇雅	
英文授業名	Reading of the Japanese Modern Literature				副担当		
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	金曜・2時限	対象学生	2-4年生
講義室	教育M301講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ						
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				⇔	中等教育における国語科の授業を遂行するため、文学的な文章の内容や構造を理解し、具体的な方法を通じて実践場面で活用できるようになる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	主に高等学校の国語教科書に掲載されたことのある作品を取り上げ、従来の教材的価値を批判的に再考するとどうなるか、物語論を踏まえて読むとどうなるか、原拠等の関連資料と比較して読むとどうなるかなど、様々な角度から読み直していく。						
(5)授業計画	第1回 ガイダンス、物語言説と物語内容（樋口一葉「たけくらべ」にはなぜ現代語訳が複数あるのか） 第2回 作者と語り手（芥川龍之介「羅生門」の「作者」とは誰か） 第3回 語り手の信頼度（太宰治「葉桜と魔笛」の老夫人は信じられるか） 第4回 物語の場所（梶井基次郎「檸檬」における京都はどのような所か） 第5回 物語の速度（川上弘美「月火水木金土日」はなぜすぐに読み終わるのか） 第6回 物語の順序（森鷗外「舞姫」はどのような順番で書かれているか） 第7回 物語の声の数（中島敦「山月記」には何人の人物が出てくるか） 第8回 物語のジャンル（井伏鱒二「山椒魚」の山椒魚は賢いか） 第9回 物語のタイトル（村上春樹はどのようにタイトルを付けているか） 第10回 登場人物の類型（夏目漱石『こころ』の人物相関図は何角形か） 第11回 精読と遠読（志賀直哉「城の崎にて」をデータで読むとどうなるか） 第12回 物語の終わり（眉村卓「書斎」には終結感があるか） 第13回 文学を読むことの意義（安部公房「棒」「赤い繭」は何を異化しているか） 第14回 物語論と国語の授業（自身で選んできた教材を分析するとどうなるか）、授業アンケート ※教育実習等を理由とした欠席分については、欠席者と相談の上、補講を行う。 ※ 大学の制度利用により担当者が不在になる場合がある。その場合は、実施できない分の授業を不在でない期間に集中で実施する。集中実施回のうち、規定時数を超えない分の回をハイフレックス型とする。						
(6)成績評価の方法	1. 授業の達成目標1の「専門的な内容を具体的な方法を通じて理解し実践場面で活用」に関する達成度を測るため、毎回の授業で実施する授業の小テストおよび振り返り（eALPS）：50点 2. 授業の達成目標1の「内容や構造を理解」に関する内容理解を測るためのレポート：50点 合計100点						
(7)成績評価の基準	秀：文学的な文章の内容や構造を高度に理解し、その知見を具体的な方法を通じて実践場面で高度に活用できる。 優：文学的な文章の内容や構造を正確に理解し、その知見を具体的な方法を通じて実践場面で正確に活用できる。 良：文学的な文章の内容や構造をおおよそ理解し、その知見を具体的な方法を通じて実践場面でおおよそ活用できる。 可：文学的な文章の内容や構造を一部理解し、その知見を具体的な方法を通じて実践場面で一部活用できる。 不可：文学的な文章の内容や構造を理解しておらず、その知見を具体的な方法を通じて実践場面活用できない。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(8)事前事後学習の内容	事前学習：eALPSにアップロードされた事前学習用のファイルを閲覧しておくこと。 事後学習：eALPSにアップロードされた事後学習用のファイルを閲覧しておくこと。 ※この授業は90時間の学修を必要とする内容である。したがって、60時間以上の時間外学習が必要となる。						
(9)履修上の注意	授業中は、受動的に授業を受講するのではなく、個人追究やグループワークなどの言語活動に主体的に参加すること。また、授業前後に必要な学習を相当時間数行うこと。 ※本授業は出席しているだけでは単位は認定されない。						
(10)質問、相談への対応及び連絡先	原則的に授業時に直接おこなうことが望ましい。個人的な相談・質問の場合はメールにて。また、オフィスアワーを利用してもよい。対応可能な場合は、その他の時間でも可。 【藤原】研究室：中校舎4F 407 内線番号：4077 アドレス：fujiwara_takamasa@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	授業内で適宜指示する。						
【参考文献】	橋本陽介『ナラトロジー入門』水声文庫, 2014						

【参考文献】	真銅正宏『小説の方法』萌書房，2007 上記に加え、授業内で適宜指示する。
--------	--